

# 「事前学習Ⅱ」

## 講師

### ・信太 奈美 先生

健康福祉学部 理学療法学科 准教授  
／ボランティアセンター アドバイザー

### ・増田 徹 さん

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会  
スポーツ振興部 事業推進課長

### ・堤 彩 さん

社会福祉法人 日野市社会福祉協議会  
日野市ボランティア・センター

2021年7月11日（日）

## 報告

7月11日（日）、南大沢キャンパス91年館多目的ホールにて、本センターが運営するスポーツボランティアプログラムの「事前学習Ⅱ」を実施しました。当日は、リーダー（プログラム参加3年以上）の学生が3名、1年目の学生が15名、合計18名が出席し、検温やアルコール消毒の徹底やフィジカルディスタンスの確保など、感染症対策をしっかりと行った上で、対面で実施しました。

「事前学習Ⅱ」では、これからの活動に向けて必要となる知識や技能を学んでいきます。講師は、障がい者スポーツをご専門とされている信太先生や、今後の活動で協働する連携団体の増田さん、堤さんにご担当いただき、スポーツボランティアに関する専門的な知識・技術や今後の活動に関する情報などをお話いただきました。

## ■ 昨年度の活動についての報告

まず初めに、本プログラムに継続して参加している3年以上（リーダー）の学生が1年目の学生に向けて、昨年度の活動報告をしました。

スポーツ大会が中止になったこと、そこから社会課題を見直し、オンラインスポーツを開発して地域でのイベント開催につなげたことなど、コロナ禍での取組状況を写真を交えながら分かりやすく説明してくれました。さらに、今年度の活動につながるようにと、2019年度（コロナ禍以前）の活動についても、それぞれの感想を加えながら説明してくれたことで、これから始まるスポーツボランティアプログラムの1年間の活動やそれぞれの関わり方をイメージすることができました。

## ■ リーダー学生による昨年度までの活動報告の様子



## 講師の方々



信太 奈美 先生



増田 徹 さん



堤 彩 さん

## ■ スポーツとは、障がい者スポーツとは

信太先生には、スポーツボランティアの特長や魅力についてお話いただきました。

前近代のスポーツは、生活の一部としての娯楽・遊びとして行われており、地域の文化的なものであることも多かったため、ルールが曖昧であったり、ほとんどなかったりするそうです。

一方、近代スポーツは、国や民族や宗教を超えて、ルールや施設、使用する用具、マナーなどが統一されており、現在は「公平性」「勝敗が明確であること」「おもしろさの保証」がスポーツの大事な要素とのことでした。

共通のルールや時間、用具などを使用することで公平性が保たれ、何をもってどちらが勝つのか共有することによって勝敗が明確になります。特に障がい者スポーツでは、より細かくルールや参加クラスの条件を設定したり、選手の身体的な特性や競技スタイルによって用具が工夫されていることで、公平性を保ったうえでの多様な参加が実現されています。

“おもしろさ”の保証については、近年の頻繁なルール改正を例に、「より難しくすることでおもしろさを増している。難しいこと・できないことを克服していくこと、乗り越えていくことがおもしろさになる」ということを教えていただきました。

競技者のみならず、スポーツを見る人、支える人などにとっても、これらの要素があるからこそ、感動したり、スリルを味わったり、おもしろさを感じたりすることができるのかもしれませんが、様々な視点からスポーツの魅力や意義を学ぶことで、ボランティアとして関わる自分たちも、「スポーツをつくる一員である」ということを改めて認識しました。

「あなたにとって、社会にとって、スポーツとはどんな存在ですか？」という問いから始まり、「ラジコンレースはスポーツ？チェスは？」など、多種多様なスポーツの例に触れながら、当たり前のように親しんできた「スポーツ」というものについて改めて考えることで、様々な要素が集まってスポーツが成り立っていることや世界中にはまだまだ私たちが知らないスポーツがたくさんあるということ、何よりスポーツの奥深さに気づくことができました。

## ■ 障がい者スポーツに関わるボランティア活動をするにあたって知っておきたいこと

東京都障害者スポーツ協会の増田さんには、障がい者スポーツの歴史を振り返りながら、東京都障害者スポーツ大会における各競技の紹介やそこでのボランティアの関わり（役割や動きなど）についてお話しいただきました。

“だれもが「いつでも どこでも いつまでも」スポーツに親しむことのできるスポーツ都市東京の実現”をモットーに、東京都障害者スポーツ協会では指導者の育成や障がい者スポーツの普及・啓発に取り組んでいるそうです。障がいの有無に関わらずスポーツを最大限に楽しめるようにするための工夫については、競技のルールや実際の道具の画像を示しながらご説明いただきました。今後の実践を前に、「見えない部分を想像する」という体験にもなりました。

## ■ 「日野市みんなと一緒にの運動会(ポッチャ大会)」について

日野市社会福祉協議会の堤さんには、「日野市みんなと一緒にの運動会」における活動目的やその内容についての説明と、昨年度にスポーツボランティアプログラムと連携して実施した「大学生と一緒に！おうちでスポーツ交流会」についてのお話をさせていただきました。

障がい者スポーツは、「特別な人が特別なことをする」というものではありませんが、そこに関わるボランティア活動も同様に特別なことではありません。「誰かの“やりたい”に共感し、“やりたい”をサポートする」という心構えについて、いくつかの事例を交えながら教えていただきました。自分の活動が誰かの笑顔につながる、自分も楽しく活動することが誰かのためになっている、これはボランティア活動の大切な魅力の一つではないでしょうか。堤さんのお話からボランティア活動の魅力が溢れていました。

ボランティア活動は様々なものがありますが、自分は何に共感し、何に魅力を感じてどのようなことにアンテナをはっていくのか、日常の中での自分への問いかけが、自分の道を開いていくための大事な要素なのかもしれません。

## ■ ポッチャ体験会

「事前学習Ⅱ」の後半には、実際に体を動かしながら学ぶ機会として「ポッチャ体験会」を行いました。

### Q ポッチャとは

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。

カーリングのように、相手のボールを弾いたりして、自分が優位に立てるよう位置取りをしていきますが、的も弾いて移動させることができるため、カーリングとは一味違う戦略、魅力がある競技です。

——『かんたんポッチャガイド（作成：日本障がい者スポーツ協会）』より

「ポッチャ」という競技名を知っている学生は多かったのですが、体験したことのある学生はとても少ないようで、今回初めてそのルールを知ったり、体験したりすることができ、とても有意義な時間になりました。

体験中は、一投ごとに「お〜」と歓声や拍手が沸き上がったたり、思い通りの場所に投げられず悔しそうにしている学生がいたりするなど、手軽にできるという良さや楽しさとともにポッチャという競技の難しさや戦略を含めた奥深さなどを知ること

ができました。

今後は、東京都文化スポーツ財団と連携し、「都立特別支援学校活用推進事業」として9月に実施を予定している「ポッチャ教室」に向けて、ポッチャの基礎知識や審判を含めた協議運営に必要なスキルを習得していきます。

## ■ ポッチャ体験会の様子



## ■ 活動目標の設定

最後に、「事前学習Ⅰ」の中で設定した“大都市東京をどのような街にしたいか”という自身のボランティア宣言をもとに、各々がプログラムの活動における具体的な目標を設定し、「事前学習Ⅱ」を終えました。

参加した学生は、様々な立場・視点からスポーツボランティアなどについて学び、これから行う活動の背景にあるものを知ることによって、より一層活動への意欲を高めていました。

## ■ 「事前学習Ⅱ」参加者の声（一部）

- ・スポーツという点ばかり考えていたが、その先の活動を通して身に着けたい力などに目を向けることができた
- ・スポーツとボランティアの関係性について理解が深まり、自分がどう関わるかを具体的に考えられた
- ・具体的にやるが見えてきて、自分のやりたいことが明確になった
- ・具体的な活動を知り、自分の目標を具体化できた
- ・プログラムの目標は「こうしたい」という感情が先に来たものだったが、個人目標はどのようなボランティアがあるか知った上で立てる目標になり、より具体的に結びついた
- ・スポーツの魅力を学んだことで、その魅力を人々と交流する中で発信していけたらなと思った
- ・より一層プログラムに対する興味がわいた